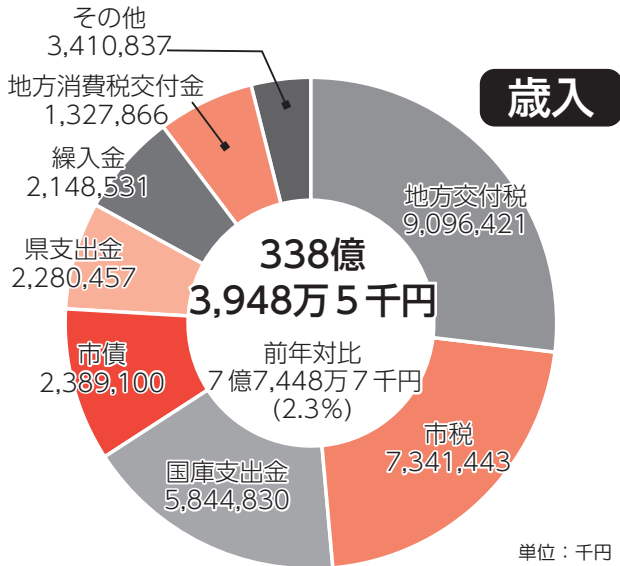
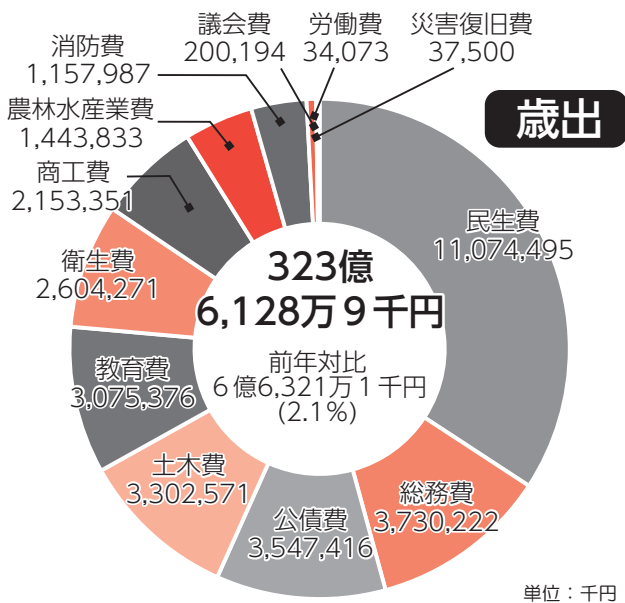


# 市の財政状況をお知らせします



①歳入総額	338億3,948万5千円
②歳出総額	323億6,128万9千円
③差引(①-②)	14億7,819万6千円
④翌年度へ繰り越すべき財源	3億7,729万3千円
⑤実質収支(③-④)	11億 90万3千円
⑥前年度実質収支	10億5,202万6千円
⑦単年度収支(⑤-⑥)	4,887万7千円
⑧財政調整基金積立金	5億2,615万6千円
⑨繰上償還金	0万円
⑩財政調整基金取崩額	10億3,539万8千円
⑪実質単年度収支(⑦+⑧+⑨-⑩)	△4億6,036万5千円



## 特別会計決算の内訳

単位：千円

特別会計名	歳入	歳出
簡易水道事業	55,528	47,455
農業集落排水事業	16,156	16,066
浄化槽整備事業	192,369	191,624
浅内財産区	8,277	7,942
常盤財産区	1,197	1,197
鶴形財産区	918	918
檜山財産区	6,722	6,373
国民健康保険	5,516,591	5,486,188
後期高齢者医療	746,281	745,568
介護保険	8,078,018	7,758,699
合計	14,622,057	14,262,030

問合せ 財政課ℓ89・2122

今後は、歳入では、人口減少等により市税や地方交付税の減少が見込まれ、歳出では、老朽化が進む公共施設やインフラの維持・更新等にかかる経費のほか、広域の一般廃棄物処理施設更新に伴う経費の増加が見込まれます。さらに厳しい財政状況になると予想していますが、経費の節減に努めつつ、市の発展のために必要な事業については、財政調整基金などを活用し取り組んでいきます。

実質収支は約11億円の黒字でしたが、財政調整基金より約10億円を繰り入れており、実質単年度収支は約4億6000万円の赤字となりました。

財政健全化法に基づく判断比率については、いずれも国の定める基準を下回っており、財政状況は「健全」な範囲となっています。

**令** 和4年度一般会計の決算は、前年度の決算額より、歳入が2・3%増の約338億円、歳出が2・1%増の約324億円となり、過去最大であった2年度に続き、過去2番目の規模となりました。

## 令和4年度に取り組んだ主な事業

### 〇元気で魅力あるまち

バスケの街づくり推進事業費	1,674万円
移住定住環境整備事業費	3,128万円
移住定住推進事業費	1,224万円
恋文のまちづくり推進費	947万円



のしろの暮らしと仕事フェア (能代会場)



子ども館展示室

### 〇笑顔で人が輝くまち

松籟荘空調等改修事業費	6,959万円
子ども・子育て支援事業費 (施設型給付費・委託費)	12億6,351万円
文化財等収蔵庫設置事業費	2億7,414万円
子ども館展示室リニューアル整備事業費	1億1,280万円



能代公園

### 〇豊かで活力あるまち

畑作等拡大総合支援事業費補助金	7,252万円
風の松原いこいの広場整備事業費	5,384万円
能代工業団地拡張事業費	2億4,846万円
企業誘致推進事業費	1億894万円

### 〇安心で暮らしやすいまち

防災対策費	1,785千円
道路交付金事業費	3億2,761万円
公園リニューアル事業費	1億4,902万円
住宅リフォーム支援事業費	8,813万円

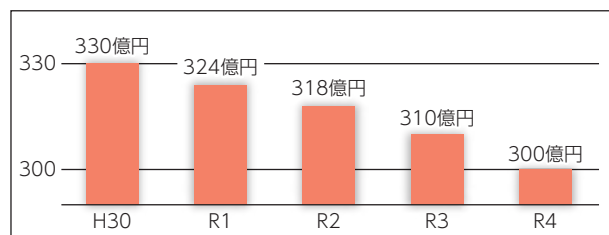
## 健全化判断比率

健全化判断比率とは、地方公共団体の財政状況を客観的に表し、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するための財政指標です。能代市は、いずれも適正な水準となっています。

- **実質赤字比率**  $\Delta$  6.62%(12.67%)  
一般会計などに生じている赤字の大きさを、地方公共団体の財政規模に対する割合で表したもの
- **連結実質赤字比率**  $\Delta$  20.43%(17.67%)  
公営企業を含む地方公共団体の全会計に生じている赤字の大きさを、財政規模に対する割合で表したもの
- **実質公債費比率** 8.1%(25.0%)  
地方公共団体の借入金(地方債)の返済額(公債費)の大きさを、財政規模に対する割合で表したもの
- **将来負担比率** 48.2%(350.0%)  
地方公共団体の借入金(地方債)など現在抱えている負債の大きさを、財政規模に対する割合で表したもの

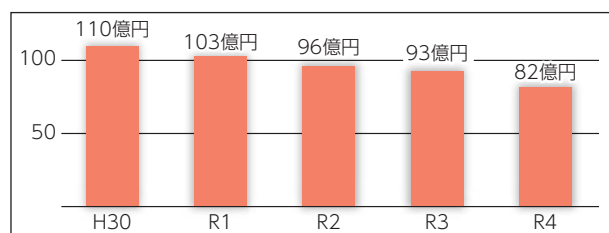
※カッコ内は国が定めた早期健全化基準

## 市債残高の推移



※一般会計分

## 基金残高の推移



※一般会計分